

農林水産分野における 生物多様性保全・利用対策

平成 2 9 年 2 月

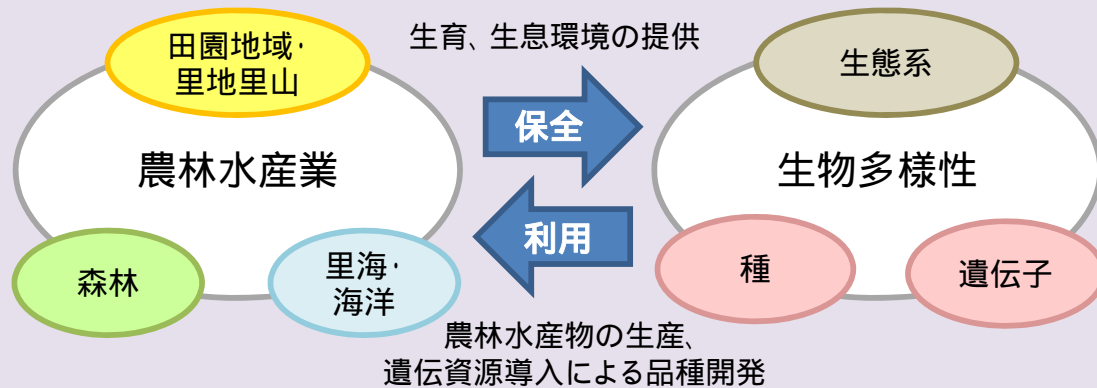
農林水産省

(1) 農林水産業における生物多様性

農林水産業は持続的な営みを通じて里地・里山・里海といった自然環境を形成し、生物多様性保全・利用に貢献。我が国の生物多様性の概況は、全体的にみれば損失が今も続いており、農林水産分野では、里地里山の管理・利用の縮小等による損失が指摘。こうした中、「農林水産省生物多様性戦略」を策定し、総合的な生物多様性保全・利用対策を一層推進。

農林水産業と生物多様性の関係

農林水産業は、自然界の多様な生物が関わる循環機能を利用



生物多様性の損失

生物多様性は、現在も損失が続いており、4つの危機が存在。

- ・第1の危機(人間活動や開発による危機)
- ・第2の危機(自然に対する働きかけの縮小による危機)
- ・第3の危機(人間により持ち込まれたものによる危機)
- ・第4の危機(地球環境の変化による危機)



経済性や効率性優先の農地・水路整備



種の減少

生物多様性条約 (CBD: Convention on Biological Diversity)

生物の多様性の保全

生物資源の持続可能な利用

遺伝資源の利用と利益配分

2年毎に生物多様性条約締約国会議 (COP) を開催

「生物多様性及び生態系サービスの総合評価報告書 (JBO2)」(2016年3月)によれば、第2の危機の里地里山の管理・利用の縮小等により今後影響が増大すると指摘されている。

「農林水産省生物多様性戦略」(H19.7決定、H24.2改定)等に基づき、総合的な生物多様性保全・利用対策を一層推進

田園地域・里地里山

森林

里海・海洋

遺伝資源

技術開発

(2) 田園地域・里地里山の保全

近年、里山林の利用の減少や農林業の担い手の不足による耕作放棄地の増加等により、従来、身近に見られた生物種の減少が見られるとともに、特定の野生動物の生息地の拡大等により、農林業への鳥獣被害が深刻化。このため、生物多様性保全等に効果の高い営農活動に取り組む農業者等に対する直接支援を実施するとともに、野生鳥獣の追払いや捕獲活動、侵入防止柵や処理加工施設の整備など地域ぐるみの取組を支援。

環境保全型農業直接支払の概要

化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減する取組と合わせて行う生物多様性保全等に効果の高い営農活動を支援。

[対象となる営農活動の例]



多面的機能支払の概要

農業者等で構成される活動組織が農地を農地として維持していくために行う地域の共同活動や、地域住民を含む活動組織が行う地域資源の質的向上を図る共同活動を支援。

[支援例]



農地法面の草刈り



水路の泥上げ



ため池の外来種駆除

鳥獣被害防止総合対策交付金の概要

野生鳥獣による被害を防止するため、追払いや捕獲活動、侵入防止策や処理加工施設の整備等、地域ぐるみの取組を支援。

[支援例]



侵入防止柵



捕獲機材の導入



実施隊への研修



ジビエ活用の推進

環境保全米 田んぼの生き物調査 (JAみやぎ登米)

環境保全米の圃場に生息している生物を採取し、生態系の保存状況を目で見て確認しようと様々なステークホルダーを迎えて「環境保全米田んぼの生き物調査」を開催。活動の中では毎年数多くの生き物が確認され、中には赤とんぼの幼虫や、ミナミメダカなど、全国的に見ても生息数が減少している生物も多数確認。

[H27年度いきものにぎわい企業活動コンテスト
農林水産大臣賞受賞]



JAみやぎ登米HPより

(3) 森林の保全

かつて薪炭林等として利用されていた里山林は、自然に対する働きかけが縮小することに伴い、明るい林相から暗い林相へと変化し、明るい環境に依存してきた動植物にとっては、生育・生息環境の質の低下や喪失が懸念。
 このため、里山林の生物多様性を保全するためには、里山林を人の生活の場や生産活動の場として維持・活用しながら、伐採による更新や、下草刈り、落ち葉かきなど人の手によって定期的な管理を行う必要。

森林・山村多面的機能発揮対策の概要

森林・山村の多面的機能の発揮を図るため、地域における活動組織が実施する森林の保安全管理や森林資源の利用等の取組を、市町村等の協力を得て支援。

[支援対象となる活動組織の活動内容例]

メインメニュー

地域環境保全タイプ



里山林景観を維持するための活動



侵入竹の伐採・除去活動



しいたけ原木などとして利用するための伐採活動

森林資源利用タイプ

明るい環境を好む里山林の動植物の例

カタクリはユリ科の多年草で、比較的日光の差すブナ、ミズナラ、イタヤカエデ等、主に落葉広葉樹林の林床に群生する。ギフキョウは日本固有種で、主に落葉広葉樹林に生息し、成虫は早春にのみ出現して、カタクリ等の春植物を蜜源とする。

里山林の利活用は、こうした明るい環境を好む動植物の生息・生育環境の確保にも寄与する。



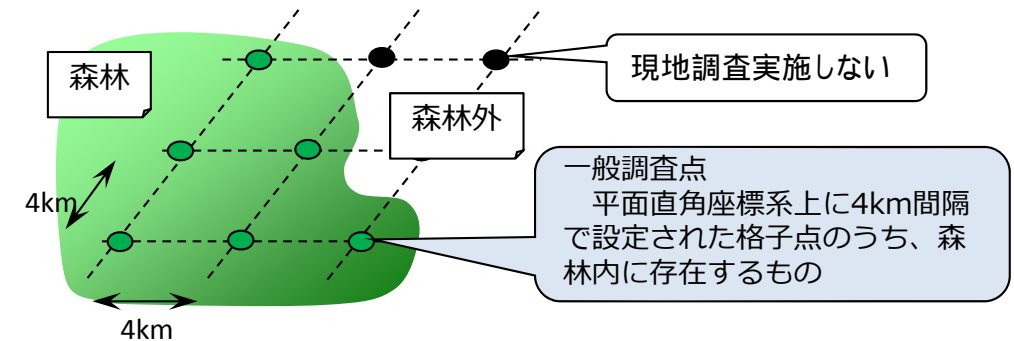
カタクリとギフキョウ

森林生態系多様性基礎調査、森林環境保全総合対策事業の概要

森林における生物多様性保全を総合的に推進するため、以下を実施。

[森林生態系多様性基礎調査]

全国土を対象に、植生等の生物多様性に関する定点観測、データの分析



[森林環境保全総合対策事業]

世界自然遺産における森林生態系の保安全管理に必要な調査



- ・「小笠原諸島」の森林生態系保安全管理手法の検討
- ・「奄美群島」の植生分布図の作成
- ・「小笠原諸島」のグリーンアノール防除対策については環境省と連携して推進

(4) 里海・海洋の保全

藻場は、沿岸域の開発のほか、海水温の上昇による海藻の立ち枯れ、海藻を食い荒らす植食性魚類の分布域の拡大等によって大きく減少。干潟においても、有害生物による二枚貝の捕食の増加、陸上からの砂の供給量の減少や円滑な物質循環の停滞等による生産力の低下が見られる。

このため、漁業者を中心とする多様な担い手による藻場・干潟等における食害生物の除去などの保全活動を推進するとともに、資源管理施策や栽培漁業と連携しつつ、水産生物の生活史に配慮した広域的な漁場整備をさらに展開し、沖合域も含めた海域全体の生産力の底上げを図る。

水産多面的発揮対策の概要

漁業者等が行う水産業・漁村の持つ多面的機能の発揮に資する藻場・干潟等の保全など地域の取組を支援。

[支援メニュー]

①環境・生態系保全

藻場・干潟・サンゴ礁の保全、内水面の生態系の維持保全 等

②海の安全確保

国境・水域の監視、海難救助 等



藻場の保全（母藻の設置）



干潟の保全（干潟の耕うん）



国境・水域の監視



サンゴ礁の保全
（オニヒトデの駆除）



内水面の生態系の維持・
保全・改善（河川清掃）



海難救助（訓練）

水産環境整備事業の概要

水産生物の生活史に対応した藻場・干潟から沖合域までの良好な生息環境空間を創出する水産環境整備を推進。

水産資源の回復対策

[課題と対応]

- ・気候変動等による藻場・干潟の減少等の環境の変化
- ・水産資源の低迷



- ・海域全体の生産力の底上げを目指した水産環境整備の推進
- ・フロンティア漁業整備のさらなる展開



水産資源を育む水産環境の保全・創出